

## 授業内容 (2022年度)

授業科目名	授業担当者(担当)氏名	区分	単位	年間授業時間	受講学年	開講年次
重奏研究 I II	銅銀 久弥 田部 京子 岡田 博美 川久保 賜紀 鐵 百合奈 他	必修	4	(シラバス参照)	1/2	毎年

### 《授業の概要》

学生および指導教員との共演による室内楽レッスン、重奏研究コンサート等の演奏会出演。

### 《到達目標》

バロックから現代に至る重奏作品をテキストとする「演奏の様式性の獲得」および「アンサンブル技術の獲得」について、高度な演奏表現の修得ができるようになる。

### 《履修方法》

1. 「重奏研究」の研究領域別区分を以下のとおり定める。年度当初の研究計画をもとに、合せて4単位を修得すること。また、学生の専攻の分布が各種ペアの組み立てに関係すること等の理由により、これを満たすことが不可能な場合は、柔軟に取り扱うことも可とする。

#### ☆ピアノ専攻生

- ・ 弦楽器専攻生とのペアによる「二重奏レパートリー研究」、弦楽器専攻生あるいはオーケストラ・アカデミー生とのグループによる「室内楽レパートリー研究」のレッスンを受講 …… 1 単位／8時間
- ・ ピアノ二重奏レパートリー研究 …… 1 単位／8時間
- ・ 「重奏研究コンサート」又は「研究科委員会により認められたキャンパス内におけるコンサート」に出演 …… 1 単位／1公演

#### ☆弦楽器専攻生

- ・ ピアノ専攻生とのペアによる「二重奏レパートリー研究」、ピアノ専攻生または弦楽器専攻生あるいはオーケストラ・アカデミー生とのグループによる「室内楽レパートリー研究」のレッスンを受講 …… 1 単位／8時間
- ・ 「重奏研究コンサート」又は「研究科委員会により認められたキャンパス内におけるコンサート」に出演 …… 1 単位／1公演
- ・ 「オーケストラ演習」(アカデミー・オーケストラ演奏会に出演) …… 1 単位／1公演

2. 各レパートリー研究の学生による「ペア」あるいは「グループ」の編成については、入学後のオリエンテーション時に調整する。調整は、学生個々の意向や研究計画をもとに、その意思を尊重しつつ、各学生の専攻実技担当教員の指導のもとに行う。

3. 「ペア」あるいは「グループ」は、それぞれの研究領域に定められた複数の教員の指導により、それぞれの「ペア」「グループ」の研究計画に沿って研究を行う。指導教員の編成については、学生個々の意向や研究計画の尊重を前提に、本学実技系教員の協議と調整により決定するものとする。指導教員決定後は、「ペア」あるいは「グループ」と、その指導教員とが綿密な連絡を保ちつつ、所定の履修計画に沿って研究・指導を行うものとする。

4. 特に理由のある場合には、関係者(当該学生および教員)で協議の上、「学生ペア」あるいは「学生グループ」の変更を認めることもあり得るものとする。その際は、その旨を速やかに研究科長あてに書面により提出するものとする。

5. 重奏研究コンサートへの出演については、編成等について問題なく、且つ担当教員の承認を得ることを前提とする。

6. オーケストラ演習(オーケストラ・アカデミーの授業)の参加にあたっては、年間行事予定表に記載された「定期演奏会」または「特別演奏会」に所定のエントリー方法(掲示)に従って登録を行うこと。

7. 各研究領域区分で定められた時間数等を超えて研究を行うことは可能であるが、修得できる単位数は4単位(必修)までとなる。

《授業計画》

オリエンテーション(個別面談)時に、学生個々の研究計画書に基づいた年間計画を相談の上、調整する。

《履修資格/履修に必要な予備知識や技能》

各専攻1・2年次生

《授業の形式》

実技レッスン

《成績評価の要点》

演奏発表および授業内での研究成果の発表 60%、受講姿勢 40%

成績は、上記の項目についてそれぞれの配分で総合的に判断し、「合格」又は「不合格」の表記とする。

《課題(試験・レポート等)に対するフィードバック方法》

課題に対しての到達度と成果について、担当教員のコメントを基に研究を進める。

《事前・事後学習、必要時間》

与えられた楽曲などの課題を技術的かつ音楽的に理解し修得できるよう、個人また共演者と共に練習する。

レッスン後には修正点や、今後の課題について確認し、復習する。

事前、事後学習に必要十分な時間を設定する。

《教材》

選択した室内楽曲のパート譜と総譜

《授業時間以外で、この授業内容等について質問がある場合》

レッスン時間前後。事前に担当教員へアポイントを取ること。